様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２１ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１２３１３

研究課題名（和文）Rethinking Sakhalin, Hokkaido and the Northern Territories: analysis of sub-regional identities and media discourses in Russia, Japan and the disputed islands

研究課題名（英文）Rethinking Sakhalin, Hokkaido and the Northern Territories: analysis of sub-regional identities and media discourses in Russia, Japan and the disputed islands

研究代表者
ＢＵＮＴＩＬＯＶ　ＧＥＯＲＧＹ（BUNTILOV, GEORGY）

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・准教授

研究者番号：７０８４３４４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,300,000円

研究成果の概要（和文）：単独インタビューおよび報道内容の分析、フィールドワーク、また自治体、現地における交流団の代表者、国際研究者及び交流団体の代表者との協力によって、本研究プロジェクトでは、北海道及びサハリン州における地域交流に影響する事情を明らかにし、北方領土交流、日露交流に関わる個々人の重要な役割の理解を深めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
１）著書「ロシアと東アジアの国々」（英語版）において北海道大学及び海外の研究者が行った北方領土交流の研究、地元の歴史的なメモリー、原住民族に関わるディスコース、国境地域における人の移動、国際社会、ヒストリカル・リエナクトメントについての研究を掲載した。
２）北海道大学において、2022年以降の国際状況でも日露交流を進めている交流団体の実践者及びその交流を分析している研究者らによるシンポジウムを開催した。
３）国家レベルの報道と北海道・サハリン州の地域レベルの報道における「日本人」と「ロシア人」のイメージの比較に基づき、そのイメージに影響する地域交流の役割について理解を深めた。

研究成果の概要（英文）：Through analysis of individual interview data, news reportage and fieldwork, as well as cooperation with representatives of exchange organizations and researchers from abroad, this project has allowed to deepen the understanding of local circumstances affecting regional exchange and the important role individuals and local organizations play in visa-free exchange with the Northern Territories/Southern Kuril Islands and international exchange between Japan and Russia through Hokkaido and Sakhalinskaya Oblast.

研究分野：国際地域交流

キーワード：日露交流　報道分析　姉妹都市　ビザなし交流　北方領土

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

これまで長年進んできた北海道とサハリン州の交流は、日露関係と共に市民交流を含めたトランスナショナル地域関係の観点から非常に重要な繋がりである。姉妹・友好都市の関係のほか、違う枠組みで北方領土交流もこれまで実施されてきた。新型コロナウイルス及びウクライナ侵攻による国際状況の悪化で、多くの日露地域交流活動が遅延または一時的に停止され、ロシア外務省側はビザなし交流を停止すると発表したが、数年後また復活する可能性があることから、日本側でビザなし交流及び地域交流を再開することが期待されている。
本研究プロジェクトでは、これまで北海道で行われていた日露と北方領土の交流事業及びそれぞれの報道の分析に基づき、交流活動に関わる個々人の重要な役割の理解を深めることができた。

２．研究の目的

本研究プロジェクトの最終目的は、国境地域である北海道及びサハリン州におけるそれぞれの自治体の繋がり、姉妹・友好都市交流、ビザなし交流の枠組みを分析し、国家及び地元レベルの事情の違いに伴う、交流活動に影響する様相を明らかにすることである。さらに、地元における交流団体の役割及びローカルインフラストラクチャー、交流活動の参加者のフィードバックを調査することにより、交流団体の委員及び参加者個々人の努力が日露交流に寄与する重要性を計ることである。具体的に下記について明らかにすることを本研究の目的とする：

１）日本とロシアのそれぞれのローカルな事情やインフラストラクチャーが、日露交流及び北方領土交流事業にどのような影響を与えるのか、また交流事業に参加した市民はその交流の有無にどのような反応であるのか。
２）市民交流が行われた国境地域の報道においては、「他国」及び「他人」のイメージが国家レベルの報道と異なるか。
３）地域交流の増加及び減少を起こす様相及び対策は何か。

３．研究の方法

本プロジェクトは複数のケーススタディによって組み立てられ、下記の研究方法で実施された：

１）報道における「日本人」及び「ロシア人」のイメージ：量的内容分析
新聞データベースへアクセスし、キーワードが含まれる見出しの記事を処理し、それぞれの新聞に現れた「日本人」と「ロシア人」に関わる記事を話題によって分類し、各話題の割合を比較した。
２）北方領土交流、姉妹・友好都市交流：質的内容分析
それぞれの交流団体及び自治体に訪問して行った、代表者との半構造化インタビューの分析に伴い、これまで行われてきた交流、日露交流及び北方領土交流の現状について考察し、個々人の役割及び交流に影響をする様相を明らかにした。

４．研究成果

本プロジェクトの主な一環として、北海道、サハリン、北方領土における交流団体及び新聞社への訪問が含まれていたが、採択された 2020 から新型コロナウイルスのパンデミックによって海外への渡航が難しくなり、さらに 2022 年 2 月以降はウクライナ侵攻により国際状況が悪化したため、本プロジェクト実施期間中、多くの企画されていた研究活動が停止となった。このような状況で、新たな進み方を検討し、可能な範囲で進められた研究で下記の成果を果たすことができた：

１）2021 年 3 月 28 日に北海道大学メディア・コミュニケーション研究院が出版した書籍「ロシアと東アジアの国々」（英語版）において北海道大学及び海外の研究者が行った北方領土交流の研究、地元の歴史的なメモリー、原住民族に関わるディスコース、国境地域における人の移動、国際社会、ヒストリカル・リエナクトメントについての研究を掲載した。このなかで、北海道大学の研究者とともに、イギリス（バーミンガム大学、マンチェスター大学）、カナダ（ケベック大学モントリオール校）、ロシア（サハリン州郷土博物館）、ポーランド（ニコラウス・コペルニクス大学）の研究者らによる寄稿をまとめた。
本著書では、研究代表者による「北方領土ビザなし交流プログラム：実験的な研究」の章で、現在まで行われていた北方領土交流に影響するロシア側の人材派遣、交通機関、滞在施設の調査に基づいて、交流事業及び交流参加者に影響する様相を明らかにした。

２）北海道大学において、2022 年以降の国際状況でも日露交流を進めている交流団体の実践者及びその交流を分析している研究者らによる「国境地域が映し出す国際危機」シンポジウムを 2022 年 12 月 10～11 日に開催した。

本シンポジウムでは、国際危機の時代に入った国境地域(サハリン、北海道、北方四島など)における移住、地域交流、アイデンティティ、領土問題の取り扱いについての研究及び実践者の経験を共有した。また、ロシア語教育を通して危機の時代における教育やアイデンティティの変化を映し出した。一日目は、研究代表者が北海道の日露友好都市から見た日露交流活動についての発表とともに、サハリン韓人の歴史記憶、映画『ジョバンニの島』の物語論的分析、国際移住先の新地域としての中央アジアについて発表が行われた。二日目は地域交流団体の実践者による発表及び研究協力者による日露国境の変更と人の移動についての発表が行われた。北海道大学、日本サハリン協会、Korean International Network、エンチウ(樺太アイヌ)協会の代表者が本シンポジウムで報告をし、バーミンガム大学の Paul Richardson 准教授がコメンテーターを務めた。

３）2019 年 12 月 5～6 日にユジノサハリンスク市に行われた「第２サハリン郷土研究学会」で研究代表者が発表した「日本とロシアのニュースにおける日本人とロシア人」研究が、2024 年 2 月にシベリア国立通信・情報大学（Siberian State University of Telecommunications and Informatics）から出版された書籍「ロシアとアジア・太平洋地域諸国：移住過程および異文化コミュニケーションの諸問題」（ロシア語版、第二部第）において章として掲載された。
本研究は、国家レベルの報道と北海道・サハリン州の地域レベルの報道における「日本人」と「ロシア人」のイメージの比較に基づき、そのイメージに影響する地域交流の役割について述べた。日本側で朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、北海道新聞、それからロシア側で国家の Kommersant、Rossiyskaya Gazeta、Komsomol'skaya Pravda 及びサハリン地方の Sovetskiy Sakhalin, Yuzhno-Sakhalinsk Segodnya 新聞における報道を分析した。メディアによる一般的な「日本人」と「ロシア人」のイメージとともに、国家ならびに地域の新聞の「日本人」と「ロシア人」というキーワードが含まれる見出しのテーマの割合を比較した結果、直接的な交流があるサハリン州と北海道における報道で互いのイメージにポジティブな影響があることを認めた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 Georgy Buntilov
２．発表標題 Regional exchange and Japan-Russia sister cities in Hokkaido: a case study
３．学会等名 Regional Identities and Exchange in the Borderlands at the Time of Crisis
４．発表年 2022年

１．発表者名 日露国境の変更と人の移動
２．発表標題 Svetlana Paichadze
３．学会等名 Regional Identities and Exchange in the Borderlands at the Time of Crisis
４．発表年 2022年

〔図書〕　計3件

１．著者名 Sheglov N., Ilyina N., Kim O., Polozheeva S., Lukoyanova M.	４．発行年 2021年
２．出版社 Zakonomudrie (ユジノサハリンスク)	５．総ページ数 445
３．書名 Vtorye kraevedcheskie chteniya (pamyati A. K. Klitina): materialy mezhregional'noy nauchnoy konferentsii (5-6 dekabrya 2019 g.)	

１．著者名 Georgy Buntilov, Svetlana Paichadze	４．発行年 2021年
２．出版社 Hokkaido University	５．総ページ数 95
３．書名 Russia and its East Asian neighbors: Regions and people beyond borders	

１．著者名 S. Paichadze, I. Waldman, E. Krasilnikova, and S. Storozheva	４．発行年 2023年
２．出版社 Siberian State University of Telecommunications and Information Sciences Department of Social and Communication Technologies	５．総ページ数 405
３．書名 Russia and the Countries of the APR: Migration Processes and Problems of Intercultural Communication. Russia in Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Russia and its East Asian neighbors: Regions and people beyond borders』(共編著) 出版のお知らせ
https://www.imc.hokudai.ac.jp/rfmc/news/202104/002714.html

【関連シンポジウム（12/10-11）】「国境地域が映し出す国際危機」
https://hokudaislav-ees.net/news-event/20221202457/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	パイチャゼ　スヴェトラナ (PAICHADZE SVETLANA)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・教授	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関